

エントリー学校名：鹿児島県 阿久根市立大川小学校

活動名：地域と共にある学校づくり ～ 阿久根・大川を再発見！ ～

解決すべき課題：

社会問題となっている少子高齢化が、阿久根市大川でも急速に進んでおり、校区内の空き家率は高く、危機的状況である。併せて、隣接する大川中学校も、令和 2 年 3 月に閉校となった。小学校の存続も危うい状態である。(令和 2 年 6 月に学校規模適正化基本方針が出された。)しかし、地域と共にある学校であるために、子供たちが、地元阿久根・大川に帰って来たいと思えるように、地域のよさを知ること、地域のためにできることを考えさせていく必要がある。

目標・方針：

学校教育目標の実現を目指し、キャッチフレーズ「自分で、気付き、考え、判断して、行動するうこっ子(大川小児童)」を掲げ、キャリア教育の視点をもって行事等を企画し、取り組むこととした。地域の企業・施設・素材・人材を活用し、地域に根差した魅力ある教育活動を行い、地元に残ったり、帰って来たりする児童の育成を図る。また、地域の方との交流を通し、地域の方を元気にさせ、地域の活性化への起爆剤にしていく。

活動内容：

- 1 大川中学校との合同の学校行事(地域住民参加型)
 運動会【図 1】、文化祭【図 2】、芸術鑑賞会【図 3】、津波対応避難訓練【図 4】
- 2 大川小学校創立 140 周年記念事業
 記念焼酎造り(サツマイモ植え・収穫【図 5】、瓶のラベルづくり・ラベル貼り)
- 3 夢授業
 (1) 大川の歴史を知ろう(地域の郷土歴史家による講話)
 (2) 鶴翔高等学校訪問学習
 ・低学年…命の学習(動植物にふれあう) ・中学年…地場学習(地産地消、食品加工)
 ・高学年…高校を知る学習(学科の授業参観、体験学習)

活動の成果：

- 1 当初の目的を十分達成できた。同時に地域の方の参加や声掛けで、児童生徒がより一層やる気を出して取り組み、地域の方も大変喜んでいて。多くの会合で行事の感想や激励の言葉をもらうことができ、小学校への関心が一層高まった。
- 2 創立記念事業として取り組んだので、児童・保護者共に愛校心をもたせ、親子での作業を通して親子の絆、労働の大変さと同時に収穫の喜びなどを体感させることができた。焼酎造りにおいては、市内の酒造会社の協力があり、焼酎販売で卒業生や地域へ小学校の存在を P R することができた。
- 3 コロナ禍のため、出前授業や工場見学は実施できなかった。残りは、11 月に実施予定である。高校への訪問学習は、発達段階に応じた学習であり、体験を通した学びであるので大変有効であると感じた。また、高校側は、生徒数を確保するために小学生のうちから高校のことを知らせることは大変意義のあることだと考え、P R 活動の一環としても捉えられると大変協力的であった。

<校区住民アンケートより>

- ・ 挨拶もよく、自ら進んでやる子供たち。大人も見習いたい。当たり前のことを大人ができなくなっている。目覚ましになります。
- ・ 少ない人数で学校行事や地域行事などに参加しており、よく頑張っている。地域との連携がうまくいっており、地域と密着したよい学校だと考える。
- ▲ 地域での活動は、それぞれにできているが校区全体の活動が少ない、これを機に地域の大人たちと交流の場を地域として提案していきたいと考える。
- ▲ 中学校の閉校に伴い、校区に対して小学校が担う役割や期待が更に大きくなると考える。校区民との触れ合いが、更に増えればいいと考える。

アピールポイント(アイディアや工夫)：

- 人・もの・場所をつないでいくことをもとに、活動のキーワードを、「つなぐ」とした。
- 1 合同開催の学校行事(小学校と中学校と地域をつなぐ)
 - 2 キャリア教育との関連(小学校と企業、親と子、親同士をつなぐ)
 - 3 共に学べる学習(小学校と高校をつなぐ) に取り組んだ。



図 1 合同運動会 ハンヤ節



図 2 合同文化祭 全員合唱



図 3 合同芸術鑑賞会 アクネ大使コンサート



図 4 合同津波対応避難訓練 霧島神社への避難



図 5 創立 140 周年記念事業焼酎造り サツマイモ収穫

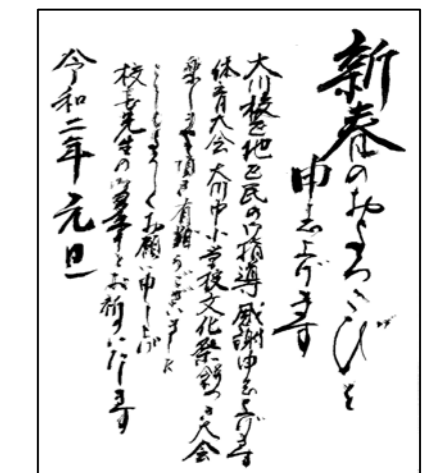


図 6 地域の方からの年賀状